全館リニューアルと単独で修繕を行う場合の事業費比較表

	全館リニューアル			単独で修繕を行う場合		
	項目	金額（単位：千円）	備考	項目	金額（単位：千円）	備考
事業費	全体改修	1,173,500		空調設備更新※1	180,000	老朽化対応 法定耐用年数15年
				多目的ホール天井改修※２	20,000	特定天井 現行基準不適格
				エレベータ改修※3	130,000	現行基準不適格 法定耐用年数17年
				設備関係	200,000	老朽化対応 電気設備（照明等） 機械設備（給排水、自動ドア等）
	合計	1,173,500		合計	530,000	
財源	国庫補助金	435,700	①			
	地方債	672,400	②			
	うち交付税措置額	235,400	③			
	うち交付税措置外	437,000	④			
	一般財源	65,400	⑤	一般財源	530,000	
	合計	1,173,500		合計	530,000	
備考	**町実質負担額　502,400千円（④＋⑤）** ※地方債分437,000千円(④)については、２０年間での償還。			※１　空調設備は老朽化のため、緊急の改修が必要。 ※２　多目的ホール天井は現行法令で不適合のため早急に改修が必要。 ※３　エレベータは現行法令で不適合のため早急に改修が必要。 ※４　文化芸術の舞台として充実が求められる多目的ホールは、音響・防音・照明の改修が必要。事業費は未定。		
その他事業	教育委員会事務局移転	11,000	子育て・教育の一体的な実施のため保健センター１Fを改修・移転			
	一部の文化財移動	2,000	展示を行わない一部文化財を白鳳館へ移動			
	休館時の図書移動	5,000	貸出は赤碕分館のみとし、まなタン休館中は図書を旧安田小へ仮置きとする			
	合計	18,000				

多機能なフロア　**一体型展示（図書＋展示＋ラウンジ）**

２階の図書ラウンジでは図書の横に展示スペースを設け、
展示物の近くに関係図書を置く一体型展示を想定しています。



ー分散型資料館へー

まなびタウン・・・図書との一体型展示で町内各所に関心を持ってもらうガイダンス展示

白鳳館・・・・・・歴史資料を移管することで史跡ガイダンスの充実を図る

（メリット）

- ◆　歴史資料への興味を引き、白鳳館へ誘導
  （まなタンで出会い、白鳳館で深く学ぶ）
- ◆　予期せず、出会う文化財(新たな興味)
- ◆　郷土に誇りを持てる学びの醸成
- ◆　イベントに応じて展示を変更可能

一体型展示の例

（瀬戸内市民図書館）



まちの歴史と一緒に出土品を展示
図書館内のメインロビー付近（移動可能）



現地で発掘された出土品を展示



文化財展示の近くに
関係図書を配置

■空調熱源改修における比較検討（減築内容反映）

比較項目		①灯油焚吸収式冷温水発生機（既存）	②電気空冷式ビル用マルチエアコン	③ガス吸収式冷温水発生機（LPガス）	④吸収式冷温水発生機＋冷式ビル用マルチエアコン	⑤吸収式冷温水発生機＋地中熱利用ヒートポンプチラー
システム概要図						
熱　源		灯油	電気	LPガス	灯油＋電気	灯油＋地中熱＋電気
CO2排出量		８４ﾄﾝ/年 杉の木　6,000本	４８ﾄﾝ/年 杉の木　3,429本	７２ﾄﾝ/年 杉の木　5,150本	８０ﾄﾝ/年 杉の木　5,714本	７３ﾄﾝ/年 杉の木　5,214本
汎用性		取り扱いメーカーも多く汎用性は高い	取り扱いメーカーも多く汎用性は高い	取り扱いメーカーも多く汎用性は高い	取り扱いメーカーも多く汎用性は高い	地中熱ヒートポンプは取り扱いメーカーが限られる
経済比較	①イニシャルコスト	112,580,000円	117,360,000円	116,080,000円	116,840,000円	207,760,000円 144,760,000円（補助金有）
	②ランニングコスト(年間)	3,208,510円	4,026,317円	6,429,081円	3,251,281円	2,607,508円
	③20年経費	176,750,200円	197,886,340円	244,661,620円	181,865,620円	259,910,160円 196,910,160円（補助金有）
備考		既存機器の更新であるため改修施工性は良い	屋外機器設置工事及びキュービクルの増設が必要	ガスタンク設置の必要性があり消防法等の対策が必要となる	屋外機器設置工事及びキュービクルの増設が必要	・地中熱（全体の15%以下） ・地中熱井戸の掘削工事において工期が長くなることを見込む必要がある